

# 2022 年度西中播磨かぞくねっと

## オンライン (ZOOM) 研修会

愛心園 保護者会  
会長 小里 豊裕

日 時：令和 4 年 10 月 30 日(日)10：00～12：00

会 場：愛心園参号館ホール

開催者：愛心福祉会・愛心園保護者会

演 題：「意思決定支援について」

講 師：関西福祉大学 佐伯文昭名誉教授



左から小里・佐伯名誉教授・中川理事長

10月30日(日)に3年ぶりとなる西中播磨かぞくねっと研修会が開催されました。講師の関西福祉大学佐伯名誉教授は臨床心理士の資格をもつ心理学の専門家です。この度「意思決定支援について」ということで、ご講演いただきました。

### ① 意思決定支援入門

#### 1. 意思決定支援とは

障がい福祉サービスに関わる支援者が行う支援行為、及び仕組みを指します。

自ら意思を決定することに困難を抱える障がい者が日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるように可能な限り本人が自ら意思決定できるように支援すること。

本人の意思の確認や意思及び選好を推定し、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合には、最後の手段として本人の最善の利益を検討し支援すること。

#### 2. 意思決定支援のプロセス

意思決定が必要な場面：サービスの選択・居住の場の選択等。⇒本人が自分で決定できるように支援。⇒自ら意思決定することが困難な場合は意思決定支援会議の開催、関係者の情報交換や本人の意思の推定、最善の利益の判断⇒意思決定に関する記録のフィードバック。

#### 3. 「意思決定」を構成する3つの要素

(1) 本人の判断能力 (2) 意思決定が必要な場面 (3) 人的・物理的環境による影響

### ② 意思決定支援の留意点

エンパワーメントの促しが「大きな意思決定」につながる。

意思決定は全員参加で！自己決定の尊重と分かりやすい情報が必要である。

意思決定支援は、本人・家族・関係者等で構成されるチームを形成し進めて行く。

### ③ 意思決定支援の充実に向けて

本人の人生に寄り添う意思決定支援が必要である。

ライフステージ「児童期（18歳未満）」「成人期（18歳～64歳）」「高齢期（65歳以上）」に添った継続性・一貫性のある意思決定支援の取り組みを行う。

#### 愛心園 理念

- ・大きな声で叫ばなくても、上手に意思表示できなくても一人ひとりの生命と声を大切に  
する社会。
- ・私たちは施設福祉を拠点とし、教育、医療、法律、あるいは他の福祉領域の専門機関と  
ネットワークを結びながら、みんなが住み良い社会づくりに努めます。

#### 研修会を終えて

- ・意思決定支援は本人の気持ちが分からないと、簡単にできるものではないが、本人が望む  
生活を実現させてあげたいと思います。そして楽しく有意義な人生を送ってほしいと思いま  
す。（保護者会 小里豊裕）

7月の半ばに「オンラインで開催することになりました！」と小里会長にお聞きしてから、約3ヶ月の準備期間を経て、研修会を開催することが出来ました。「意思決定支援」という難しく感じるテーマですが、「勝手に決めたらあかんよ」「まずは本人に聞いてね」「本人が言えなくても周りには最大限本人の気持ちを考えてね」「決めるための情報提供や体験の機会を小さい時からつくってね」ということだったと思います。そして「聞いたからには、それを実現出来る世の中をつくってね」という声なき声が聞こえてきます…。講演後の施設紹介も残念ながらオンラインになりましたが、コロナがおさまったら、ぜひ、新しくなった愛心園を見に来て下さいね！

かぞくねっとのみなさん、講師の佐伯文昭先生、大変貴重な機会をありがとうございました。（愛心園 中川理事長）